

事例
紹介

岐南町・笠松町の取り組み

◆ 岐南町・笠松町の概要

羽島郡2町（岐南町・笠松町）は、県南部に位置し、愛知県や岐阜市へのアクセスが良い町です。岐南町においては若い世代の人口が多く、笠松町は高齢者の人口が多いことから年齢構成が異なり、国保加入者の平均年齢においても差があります。

国保加入者の平均年齢（令和5年度）

	岐南町	笠松町	岐阜県
平均年齢	49.0歳	52.6歳	53.6歳

出典：KDBデータ（健診・医療・介護データからみる地域の健康課題）

◆ 健康課題（医療費分析）

糖尿病や人工透析における医療費の割合は2町ともに高く、岐南町の人工透析の医療費割合は特に高いです。第3期データヘルス計画では、糖尿病性腎症の重症化予防を健康課題とし、「糖尿病性腎症重症化予防事業」を計画し実施しています。

生活習慣病の医療費割合（令和5年度）

	岐南町	笠松町	岐阜県
糖尿病	30.5%	26.7%	27.2%
人工透析	10.4%	5.9%	6.3%

出典：岐阜県（市町村国保）における医療費・疾病・特定健診の状況（令和5年度）

◆ 糖尿病性腎症と慢性腎臓病（CKD）の重症化予防事業を併せた取組

糖尿病性腎症重症化予防の取り組みはプログラムに沿って実施していますが、令和5年度の新たな取り組みとして、慢性腎臓病（CKD）重症化予防事業と併せて実施しました。

実施にあたり、受診勧奨対象者は糖尿病とCKDを合わせると654名であり、また実施時期が年度の後半期に集中することで医療現場に負担がかかることが考えられました。そのため優先順位を決めて対象者の一部分から実施する方法など検討しましたが、協議の中、羽島郡医師会の先生より「事業対象者にきちんと知らせることが重要であり、対象者全員に実施する必要がある。」とご助言を頂き、10月から3月まで全対象者に受診勧奨を実施することになりました。

羽島郡医師会のご理解ご協力を頂き、町とかかりつけ医、またかかりつけ医と専門医の連携体制が構築され、重症化予防事業をスムーズに実施することができました。

① 羽島郡医師会との連携の経緯

日にち	連携内容
R4.7月20日	「CKD対策打合わせ会」開催（事業開始へ向けて連携スタート）
R5.1月～4月	受診勧奨対象者、「羽島郡CKD協力医」の登録について協議
R5.7月1日	研修会の開催「これからのCKD診療セミナーin羽島郡」（主催羽島郡医師会）
R5.9月	羽島郡医師会にて「羽島郡CKD協力医」を登録
R5.10月～	受診勧奨を開始（羽島郡CKD協力医の一覧を同封）

② 令和5年度の受診勧奨基準（75歳未満）

- eGFR45～60未満
- 尿蛋白（+）

受診勧奨通知の送付

- 尿蛋白（++）以上
- eGFR45未満
- eGFR45～60未満かつ尿蛋白（+）
- eGFR前年比25%以上低下かつeGFR60未満
- HbA1c6.5%以上もしくは空腹時血糖126mg/dℓ以上（随時血糖200mg/dℓ以上）、かつR5年度に糖尿病受診歴なし

受診勧奨通知及び
連絡票を送付し、
受診状況を追跡

糖尿病性腎症、慢性腎臓病の方は除く

③ 受診勧奨の結果

	岐南町	笠松町
受診勧奨対象者	340人	314人
再掲）連絡票送付者	108人	77人
連絡票の返信あり	45人	38人
診断名※	糖尿病	11人
	糖尿病性腎症	10人
	糖尿病を伴わない慢性腎臓病	23人
	その他	8人

※診断名に重複あり

受診勧奨通知を送付することで、医療機関受診のきっかけとなり、対象者にCKDについて周知啓発することができたと感じています。また、医療機関での受診状況や治療についても確認ができ、必要な場合、町から医療機関へ連絡するなど、さらに連携をとることができました。

今後も、羽島郡医師会、羽島郡CKD協力医と連携し、地域がー丸となり糖尿病性腎症、慢性腎臓病（CKD）重症化予防を推進できるように取り組んでいきたいと思います。

◆ 今後の展望

超高齢化が進む中、羽島郡医師会ではCKD協力医療機関として21医療機関（かかりつけ医）が参加し、CKDの早期発見・診断、及び良質で適切な治療を発症早期より行うため腎臓専門医（中核病院）と連携し行っています。また、薬剤等内服薬についてCKD発症早期よりかかりつけ薬剤師と、処方薬剤の内容や服薬状況の見直しを行っています。かかりつけ医で食事療法など指導が困難な場合は町の保健師・管理栄養士に依頼をしています。これらにより今後人工透析治療への進行を抑制するよう、地域での連携体制を構築し診療して参ります。

羽島郡医師会担当理事 美濃輪 博英